

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年3月31日

事業所名 まなびの森キラリ星川

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|--|--|----|---|--|---|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | 運動と机上のスペースを分けて行っている。保育園と同じ部屋を共有している為使用する前に事前に療育の為に環境の設定を行っている。教材などの物の置き場も保育園側と相談しながら保育園の物と療育の物とお互い管理できるように場所の固定や定期的な整理整頓等行っています。 | 保育園と物の共有をしていることもあり年齢に合わせてその都度机を借りることが難しい。サイズが合っていない為年齢にあったサイズの机を用意していきます。 |
| | 2 職員の配置数は適切である | ○ | | 適切な職員を配置するだけでなく、内部研修やweb研修を活用し、支援の質の向上に取り組んでいます。 | 言語聴覚士や作業療法士等の専門職員に入ってもらうことで専門分野での活動をさらに広げられるようにしていきます。 |
| | 3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | ○ | | 窓がたくさんあり明るい環境ではあるが、それにより窓が気になって落ち着かない子どももいるため、特性に合わせて子どもの目の高さの窓は隠す、静と動の活動で部屋を仕切るなど子どもたちが活動に集中できるように工夫しています。 | 令和5年度事業所設立の為設備等の問題は今現在懸念はありません。設備面では常に問題が無いか職員で確認しながら環境整備に配慮しています。 |
| | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | ○ | | 毎回準備の際に清掃を行い危険なものがないか、転倒など危険性がないかを確認。落ち着いて活動に取り組めるような物の配置や環境設定をその都度行っています。 | コロナ禍での消毒・清掃・換気を感染症の流行問わず常に日頃から留意し徹底して取り組んでいます。 |
| 業務改善 | 5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している | ○ | | 職員全員で当日の活動内容・流れの確認をする。活動後は振り返りを行い、今後の支援方針の再考や情報共有を丁寧にしています。 | 様々な業務改善に向けての取り組みを進めていくために職員の参画意識の向上に引き続き取り組んでいきます。 |
| | 6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | 保護者との面談を通し意向の把握・再確認を行い、事業所全体で周知している。また、改善する点があれば職員全員で話し合う時間を作り今後どうしていくかを決めていきます。 | 今年度の評価を生かして新たに改善すべき点は検討していきます。 |
| | 7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | 事業所における自己評価結果及び保護者等からの事業所評価の集計結果をホームページにて公開していきます。 | 今年度の評価を受け、ご意見いただいたところを次年度改善できるように職員間で周知・検討していきます。 |
| | 8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | | 半年に一度法人として評価があるので、評価内容を真摯に受け止め改善に動め積極的に取り組んでいます。 | 今後実施時期も含めて検討していきます。 |
| | 9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 法人内の研修や外部研修にも参加し資質の向上に努める。また事業所内でもそれぞれ受けた研修をお互いに情報共有するように心がけています。 | 法人内での研修に加え、主体となっているムーブメント療育の外部講習に積極的に参加しスキルや療育内容の資質向上を図っています。 |
| 適切な支援の提供 | 10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | ○ | | 保護者より子どもの好きなことや苦手なこと、療育に通ううえでの希望や思いを丁寧に聞き取りそこからその子にとって必要なことや課題は何かを見つけて作成していくように心掛けています。 | 今後も保護者からのニーズや思いをくみ取り一人ひとりに応じた支援目標と支援目標を作成していきます。 |
| | 11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | 発達検査や知能検査の結果を確認しています。 | フォーマル・インフォーマルなアセスメントをすることで、より子供にあった療育が提供できるようにしていきます。 |
| | 12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | ○ | | 児童発達支援ガイドラインに基づき、面談や日々の療育を通じ子供自身の特性や個性を大切に、保護者の考えや思いを加味し、一人ひとりに応じた支援目標と具体的な取り組み内容を設定しています。 | 保護者同席での支援等を積極的に取り組み、本人への発達支援に加え家族支援にも力を入れていきます。 |
| | 13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | ○ | | 支援計画を全職員で必ず確認・周知することでどの職員でも同じように支援出来るようにしている。療育前後に職員間で話をするようにし、一人ひとりの関わり方や声の掛け方など再度確認、また次の療育に向けて改善点があればその場で話し合い共有しています。 | 保護者との面談時には支援計画に沿った活動が行われているか確認し保護者の意向等にも寄り添うことが出来ているかを確認し、必要に応じ適宜改善修正を進めています。 |
| | 14 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | 一人ひとりの発達や特性を踏まえて職員で相談しながら活動内容を決めています。 | |
| | 15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 子どもたち一人一人の発達や特性に合わせて日々内容を変えている。事前に内容を考えていてもその日の子どもの様子や調子等も考慮しながら無理せず取り組める活動を考えていきます。 | |
| | 16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している | ○ | | | |
| | 17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 療育前に必ず職員間で療育での支援の仕方や内容など共有・理解していくように打ち合わせをしています。 | |
| 18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | 療育後に必ず振り返りを行いその日の療育での子どもたちの様子、気づいたことや成長したこと、今後の課題など話し合い次の療育に繋げていけるように話し合いを行っています。 | | |

| | | | | | | |
|--------------|----|--|---|---|---|---|
| 関係機関や保護者との連携 | 19 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | 計画に基づく支援に対する記録を基本にその日の状況等を記録しています。 | |
| | 20 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | 定期的に行う保護者との面談をもとに子ども一人一人の成長・発達や課題について情報交換をし、職員間でも話し合いをしたうえで作成を行っています。 | |
| | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | 管理者、児発管、担当職員のうち適切と言われる職員が参画しています。 | |
| | 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている | ○ | | | |
| | 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | / | / | | 対象児童なし |
| | 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている | / | / | | 対象児童なし |
| | 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | ○ | | 子どもが通っている保育園には必要に応じて訪問や電話などで情報交換を行い相互理解を図るよう心がけています。 | |
| | 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | ○ | | 必要に応じて就学先の職員と面談時間を設け療育での様子等それぞれの特性や発達状況など丁寧に伝えるよう心がけています。 | |
| | 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | 必要に応じて各市町村の担当者や連携をとっています。 | |
| | 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | | 施設が保育園内にある為インクルーシブ保育を実施し交流を図っています。 | |
| 保護者への説明責任等 | 29 | (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している | / | / | | |
| | 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | 日々の療育後にその日の療育での様子を伝えるとともに、定期的に行う保護者との面談にて細かく情報交換を行いながら成長してるところだけでなく今後の課題についてもお伝えし共通理解を図っています。 | |
| | 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている | ○ | | 家族支援プログラムという名称ではありませんが、面談等を通してお子さんの特性理解や学び方、関わり方へと繋がる家族支援を実施しています。 | |
| | 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | 主に契約時に丁寧な説明を心がけています。 | |
| | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | ○ | | | |
| | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | 個別支援計画書の更新に合わせて目標と支援内容の確認を行っています。 | |
| | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | | | 来年度からコロナの状況も変わる為、親子、親同士が楽しめる会を企画していきます。 |
| | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | 普段の面談にて要望や気になることがあるか確認、職員間で周知改訂できることは改善しています。 | |
| | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | | |
| | 38 | 個人情報の取扱いに十分注意している | ○ | | インターネットに掲載する情報(写真)について同意を頂いている。また、掲載するものに関しては個人が特定できないよう掲載の仕方を工夫し保護者にも伝えていきます。 | |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|---|---|---------|
| | 39 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | 保護者とは送迎の際に普段から様子を丁寧に伝え、面談ではなるべく会って話ができるようになど直接やり取りをすることで意思疎通ができるように配慮しています。 | |
| | 40 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | | ○ | | |
| 非常時等の対応 | 41 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | ○ | | 保育園と同様に毎月避難訓練を行う。実際に防災頭巾をかぶり、職員の声掛けでみんなで集まって待つ事、避難する練習を行っています。 | |
| | 42 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | 保育園と連携して急な災害や事故が起きても避難できるように毎月訓練を行っています。 | |
| | 43 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している | ○ | | 入所時に丁寧に聞き取りを行う中で一人一人の特性や症状などを把握し職員全員で周知しています。 | |
| | 44 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | | | | 対象児童なし。 |
| | 45 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | | ○ | 事業所だけでなく法人全体でのヒヤリハットの事例を共有し、再発防止策を確認しています。 | |
| | 46 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | | ○ | 法人全体でも研修を実施しています。 | |
| | 47 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | ○ | | 身体拘束を行うまでの児童はいませんが、危険が伴う行動に対して職員が制止することはある為、それについては保護者に伝えたくて行っています。 | |

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表：2024年3月31日

事業所名 まなびの森キラリ豊川

保護者等数(児童数)

回収数 11

割合 %

| | チェック項目 | 保護者等からの評価 | | | | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|---|---|-----------|-----------|-----|-------|-------------------------------------|--|
| | | はい | どちらともいえない | いいえ | わからない | | |
| 環境・体制整備 | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 2 職員の配置数や専門性は適切であるか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 3 生活空間は、主人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか | 10 | 0 | 0 | 1 | | |
| | 4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもの活動に合わせた空間となっているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| 適切な支援の提供 | 5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| 保護者への説明等 | 9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか | 8 | 1 | 0 | 2 | | |
| | 10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか | 6 | 2 | 1 | 2 | | |
| | 13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 2 | 4 | 0 | 5 | 回数が少ないと感じた | 保護者同士で交流できる機会を増やしつつ、連絡するのがざりざりになったことで参加できない方がいたため、なるべく多くの方に参加してもらえるように早めにお知らせを出すようにしていく。 |
| | 16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか | 10 | 0 | 0 | 1 | | |
| | 17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| 18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか | 5 | 2 | 0 | 4 | | | |
| 19 個人情報の取り扱いに十分注意されているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 非常時等の対応 | 20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか | 7 | 1 | 0 | 3 | | |
| | 21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 7 | 0 | 0 | 4 | | |
| 満足度 | 22 子どもは通所を楽しみにしているか | 11 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 23 事業所の支援に満足しているか | 11 | 0 | 0 | 0 | 満足度高に対応して頂き助かっています。約一年間ありがとうございました。 | 引き継ぎ子どもたちが楽しく通えるように配慮していく。満足度高に対応していく。 |

*1 この部屋で何をやるのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。
 *2 児童発達支援を利用する様々な子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。
 *3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。
 *4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた要め方を学ぶことで、子どもが適切な行動を獲得することを目標としています。